

中国語の環

第131号

『中国語の環』編集室編 2026年1月

目次 10 中国語でどういう？ まさかそんなことしないよな？

11 例文で説き（＝解き）ほぐす中国語文法

Lesson 15 ペアを求めて…（その8）

12 中国語と文化 中国語と間合い

13 語彙学習の話 動詞“惑”について

14 看図学汉语 这是什么动作？

※ 紛らわしい文法表現 “不经常”と“经常不”

※ 中国語の文法は面白い 中国語の“想”“愿意”“要”について（2）

16 中検のススメ 中国語学習の旅に、中検という道しるべを

※Web版のみ



『中国語の環』Web

ひとことエッセイ

“打草惊蛇”というよく使われる成語がある。文字どおりには「草を打って蛇を驚かす」だが、《现代汉语词典》によると、“比喻采取机密行动时，不慎惊动了对方”，つまり慎重に行動すべき時に不用意なことをして、相手を驚かせたり、警戒心を抱かせたりすることのたとえとして使われる。ただちに思い浮かぶのは、日本語の「藪（やぶ）をついて蛇を出す」、縮めて「藪蛇（やぶへび）」である。ただし、わたくし自身も誤解していたが、この両者は似ているようで、まったく同じというわけではない。

中国語の“打草惊蛇”は、例えば、“切不可打草惊蛇，误了大事！”（決して軽率な行動をして、大事を誤ってはならない）のように使う。一方、日本語の「うっかり口に出して藪蛇になってしまった」は，“无意说的一句话惹了麻烦”で、この場合、“打草惊蛇”は使えない。“惹麻烦”は“面倒を引き起こす”で、「藪蛇」に通じる慣用語である。

「草を打って蛇を驚かす」は、日本語としては「藪をついて蛇を出す」に通じるが、中国語の“打草惊蛇”は「藪蛇」とは大きくズレているようだ。 （上野 恵司）

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・複写・転載することを禁じます。

まさかそんなことしないよな？

張 勤（中京大学）

中国語の“你敢(～)？”は、直訳すれば「あなたは～する勇気があるか」という意味の疑問文のように見えるが、実際の使用場面では、話者が相手に対して挑戦的な語気をもって感情の爆発点を鋭く表していることが多い。たとえば、こんな場面を想像してみてほしい。

(1) 你敢打我?! ([殴ろうとしてきた・殴ってきた相手に] 私を殴る気？／私を殴ったな！)

(2) 你敢告诉老师我没做作业?! ([告げ口をしようとした・した相手に] 先生に私が宿題をやっていないって言うつもり？／言ったな！)

(1)(2)に共通するのは、相手がそれをするかどうかを尋ねているのではなく、相手の行為を未然に抑止したり、すでに起こった行為に怒りをぶつけたりするために使われている点である。“敢”は本来「勇気がある、思い切って～する」という意味であり、否定形では「そんな勇気はない」「まさかそんなことはしないだろう」というニュアンスになる。“你敢(～)？”になれば、「お前、まさかそんなことしないよな？／したな！」という次のような意味を一気に相手にぶつけていく。

- ・警告：相手の行為に対して強い否定的態度を表す。
- ・非難：相手の行為が社会的・人間関係的に不適切であると示唆する。
- ・威嚇：もし相手が行為を続けるなら何らかの報復があると暗示する。

日本語にはこれにぴったり対応する表現は少ないが、「よくもそんなことを～」「あんた、そんなことできると思ってるの？」「ふざけないで！」といった強い語調の感情的反応が、機能的には近いと言えるだろう。

また、下記(3)のように、子どもに対して大人が使う場合もよく見られる。このような場合は、しつけ・コントロールの一環としての使用であり、感情を直接ぶつけるというより、相手の行為を未然に制止する命令・条件文的な効果を持っている。

(3) 你敢再哭，我就不再给你吃糖！（また泣いたら飴はなしょ！）

さらに“你敢”は、文脈によってはユーモラスな用法にもなる。たとえば友人間の冗談や、恋人同士の甘えた会話の中でも使われる。

(4) 你敢不理我！（私を無視するつもり？！=ちょっと拗ねた、甘える言い方）

この場合は、怒りというより気を引こうとする感情表現になっており、親密な関係だからこそ可能な使い方だ。

このように、“你敢”は、字面の意味以上に話し手の心理・人間関係のダイナミクスを映し出す表現であり、威圧・制止・非難・しつけ・冗談・甘えといった多様な語用的機能を持っている。状況・話者の態度・関係性を考慮しながら、字面にとらわれずに感情の機微を精査して細かいニュアンスを理解する必要がある。

Lesson15 ペアを求めて…（その8）

古川 裕（大阪大学）

中国語の表現は「対」＝ペアを作ることで安定する性質があります。その証拠に、中国語では対句で言う固定的な表現がたくさんあります。前回に続いて、今回も『中検成語・慣用語・ことわざ』（朝日出版社、2024年4月）から、ことわざや慣用表現のおもしろい実例を見てみましょう。

日本語では「一年の計は元旦にあり」と言いますが、中国語だと“一年之计在于春”に加えて“一日之计在于晨”をペアとして付け加えて言うことがあります。すなわち「一年の計は春にあり、一日の計は早朝にあり」というわけです。

空間に関する言葉がペアになりやすいことは、この連載でも既に見た通りです。

- ・[上：下] 上有天堂，下有苏杭。…「天に極楽、地に蘇州杭州」。“堂táng”と“杭háng”で韻を踏むために、蘇州が前で杭州が後の順になります。
- ・[上：下] 比上不足，比下有余。…日本語なら「上には上有る」のように、「上」だけ言って、「下」のことはあまり言いませんね。
- ・[前：后] 前车之覆，后车之鉴。…四字成語では“前车之鉴”となります。
- ・[前：后] 前怕狼，后怕虎。（前怕龙，后怕虎。）…日本語では「前門の虎、後門の狼」となって、「虎」が「狼」より先に出ます。中国語は声調の順に並ぶので、第2声（平声）の“狼láng”が第3声（上声）の“虎hǔ”よりも前に出ます。
- ・[前：后] 前人栽树，后人乘凉。…“前人：后人”は空間的な前後ではなく、時間的な前後です。先人が木を植えてくれたおかげで、後の人人が木陰を享受できるという意味です。
- ・[东：西] 拆东墙，补西墙。…“东：西”は実際の東西方向ではなく「あちらこちら」。“拆”は「解体する、ばらす」という意味の動詞です。
- ・[东：西] 十年河东，十年河西。…十年たてば地形も大きく変わると言っています。
- ・[来：去] 风里来，雨里去。…“风”と“雨”もよくペアになります。
また、次のような形容詞の反義語も典型的なペア表現を作ります。
- ・[大：小] 雷声大，雨点小。…“干打雷，不下雨”という慣用句もあります。
- ・[旧：新] 旧的不去，新的不来。…“旧：新”と“去：来”がペアになっています。
- ・[高：低] 高不成，低不就。…日本語も対句で「帶に短し、たすきに長し」。
- ・[远：近] 远在天边，近在眼前。（远在千里，近在目前；远在天涯，近在咫尺）
- ・[软：硬] 软不吃，硬不吃。（软的不吃，硬的不吃；软硬不吃）…日本語なら「煮ても焼いても食えぬ」で「煮る」「焼く」がペアになります。
- ・[明：暗] 明枪易躲，暗箭难防。…“暗箭”は暗い所から放たれた矢、いわば闇討ちです。“明箭”は臨時の反義語ペアで、正面から打たれた矢です。

中国語と間合い

加藤 徹（明治大学）

間合いは、もともと芸道や武道の用語である。歌舞音曲では、調子や拍子が変化する微妙なタイミングの短い時間を指す。武道では、対峙する相手との距離感の取り方を指す。時間的・空間的に最適解である「すきま」のセンス。それを身につけることは、日本語でも中国語でも大切だ。

ただ、日本語は単語と単語を「てにをは」で結ぶ膠着語。中国語は単語と単語を敷石のように並べる孤立語。日本語の間合いは「てにをは」で、あるいは文字でも書き表せる。「てにをは」が無い中国語は「間合い」を文字で書きにくい。

我也学习中文。Wǒ yě xuéxí Zhōngwén.

は、音読の微妙な間合いにより「私も中国語を勉強します」にも「私は中国語も勉強します」にもなる。どちらの意味かは、文字だけ見てもわからない。

我来了！Wǒ lái le!

これも間合いによって「来たよ」(完了)にも「いま行くよ」(新事態発生)にもなる。AとBの会話。Aは台所で家事をしている。庭にいるBに「来て！」と呼びかける。Bは大声で“我来了！”と答える。Bは台所に移動。Aの背後から耳元に“我来了！”とささやく。……日本人は困惑する。「えっ？ なんで？ 大声と小声で意味が変わるの!?」 声の大きさではない。間合いである。

日本語の「いま行くよ」と「来たよ」は別の言い方だ。これは日本式合理主義だ。しかし中国人は同一の言い方で、間合いで区別する。同じ言い回しでいろいろな意味を表せて便利、という発想は、中国式合理主義だ。

“我也学习中文。”や“我来了！”の2つの意味の区別のしかたを文字で解説すると、まわりくどくなる。シンタックスとかコンテクスト、アスペクト助詞“了₁”と語氣助詞“了₂”，など小難しい文法用語が並ぶと、初心者は頭が痛くなる。

では、日本人の初心者は、どうやったら間合いのセンスが身につくのか。

教室での対面授業や、テレビ、ラジオの講座の存在意義は、ここにある。

筆者が講師を担当しているNHKテレビ『中国語!ナビ』の隠しコンセプトは、間合いのセンスを初心者に自然に感得してもらうこと、である。番組では、講師の声色演技や、喜怒哀楽のドラマ仕立てのアニメスキット、ネイティブ出演者と生徒役（柏木由紀さん）によるロールプレイング、スタジオでの寄りや引きのカメラワーク、など様々な工夫をこらし、毎回、試行錯誤と悪戦苦闘を繰り返している。

動詞“怼”について

沈 国威（浙江工商大学）

かつて電話の普及によって言語行動が大きく変わったのと同じように、SNSの社会生活への浸透に伴い、言語表現、単語まで大きく激しく変わった。その変化の範囲と速さもこれまでなかったもので、まさに隔世の感がある。これから数回ネット流行語を取り上げてみたいが、今回は動詞“怼”について見てみよう。

“怼”は最近「繁簡」を問わず中国語SNSを賑わせた語の1つである。“怼”は元々めったに使わない、しかも方言色の濃い語であるが、その後ネットの流行語となつたものである。“怼”ということばは意外と古く、『説文解字』には“怨也”とある。つまり「恨む」という意味であるが、現在は殆ど使われない。

一方、北方方言（特に河南、山東、陝西など）では、“怼”は duǐ と発音し、「たてつく、反論する」という意味である。例えば，“我把他怼了一顿”は、「ぼくは彼をこっぴどく叱った」という意味である。“怼”的この方言的な意味は、SNSを通じてたちまち全国的に拡散した。またこの「対抗する、たてつく、反撃する」といった意味を維持しながら、感情的意味、使用文脈が大きく変わった。以下、それを少し整理しておく。

現在“怼”的最も一般的な意味は、非難する、反論する、叱る、風刺するである。

- (1) “他公然和头儿上反调，真敢怼。”（上司に反論したんだ。本当にやるね。）
- (2) “对于那些无端指责，坚决怼回去。”（勇気を持って立ち向かわないと。）

場合によってはふざけた、大げさな意味合いで使われることもある。“他俩常在网上隔空互怼。”（彼ら2人はよくネット上で言い合いをする。）

“怼”は言葉を発するだけではなく、具体的な行動を指す用法も見られる。この時は「対抗する、挑戦する、一生懸命に取り組む」といった意味になる。

- (3) “弱队怼强队，这场比赛又看头儿。”（弱いチームが強いチームに挑むなんて。）
- (4) “新人勇怼行业大佬，令人钦佩。”（新人が業界の大物に果敢に立ち向かうとは。）
- (5) “今晚开夜车，怼完论文再睡！”（今日は徹夜で論文を仕上げてから寝る！）
- (6) “他一顿饭怼了八个包子。”（彼は一食で肉まんを8個も平らげた。）

動詞は、意味だけではなく、他の語との組み合わせや受け身文や使役文の可否、よく使用される文脈などにも留意しなければならない。“怼”は、“怼人”（人を非難する），“怒怼形式主义”（形式主義を痛烈に批判する）のように人あるいは事柄を目的語に取ることができる。なお、単独で用いるより次のように連語で使用する場合が多い。“开怼”：非難を始める。“怒怼”：猛烈に攻撃する。“互怼”：やり合う、言い合う。“怼回去”：反撃する、やり返す。

最後に“怼”はあくまでもネット流行語なので、正式な文章、ビジネス上の書簡や学術論文では使用を避け、“反驳、批评、指责、回应”などを使うべきであろう。

这是什么动作? 【さまざまな動作(2)】

绘 张 恢
文 『中国語の環』編集室

**拿 ná**

手を持つ、手に取る、持ち運ぶ

- 手里拿着一个苹果 píngguǒ
- 这些书你都拿去吧
- 沉得 chénde 拿不动 重くて動かせない

**抓 zhuā**

つかむ、握る；捕らえる、捉える

- 一把抓住 yī bǎ zhuāzhù ぎゅっと握る
- 抓小偷儿 zhuā xiǎotōur 泥棒を捕らえる
- 抓住机会 zhuāzhù jīhui チャンスを捉える

**握 wò**

握る、握りしめる

- 握手 wòshǒu 手を握る；握手する
- 握别 wòbié 握手して別れる
- 握住车把 chēbǎ ハンドルを握りしめる

**提 tí**

手に提げる、ぶらさげる；言い出す

- 提篮子 tí lánzi かごを手に提げる
- 提着皮包进来 kābānを提げて入ってくる
- 提意见 tí yìjian 意見を出す

**推 tuī**

押す、押して動かす

- 推车 tuī chē 車を後ろから押す
- 推门进来 扇を押し開けて入ってくる
- 推头 (バリカンで) 頭を刈る

**拉 lā**

引く、引っ張る；弦楽器をひく

- 把门拉开 (引いて) ドアを開ける
- 拉洋车 lā yángchē 人力車を引く
- 拉胡琴 lā húqín 胡弓をひく

**摸 mō**

なでる，触る，手をふれる

- 摸脑袋 mō nǎodai 頭をなでる
- 轻轻地摸 qīngqīng de mō そととなでる
- 摸不清 mōbuqīng (状況などが)はっきりつかめない

**打 dǎ**

打つ，なぐる，たたく

- 用拳头 quántóu 打 げんこつでなぐる
- 不能打人 人をなぐってはいけない
- 趁热打铁 chènrè-dātiě 鉄は熱いうちに打て
- 打鼓 dǎ gǔ 太鼓をたたく

**拍 pāi**

(ポンと)たたく；撮影する

- 他从背后 bēihòu 拍了我的肩膀 jiānbǎng
- 拍手 pāishǒu 手をたたく，拍手する
- 拍照片 pāi zhàopiàn 写真を撮る

**捏 niē**

つまむ，こねる；つかむ，握る

- 捏脸蛋儿 niē liǎndànrr ほっぺたをつねる
- 捏鼻子 niē bízi 鼻をつまむ
- 捏泥人儿 niē nírénnr 泥人形をつくる
- 捏一把汗 niē yī bǎ hàn 手に汗を握る

**夹 jiā**

(両側から)挟む，(脇に)抱える

- 把书签 shūqiān 夹在书里 本にしおりを挟む
- 把书夹在腋窝 yèwō 本を脇に抱える
- 文件夹 wénjiànjiā ファイル，バインダー

**擦 cā**

こする；ふく，ぬぐう

- 擦桌子 cā zhuōzi 机を拭く
- 擦黑板 cā hēibǎn 黒板を消す
- 擦脑门儿 nǎoménr 上的汗 額の汗を拭う

訳語のない語句は辞書を引いて調べてみましょう。

中国語学習の旅に、中検という道しるべを

青山 恭子

私は大学で中国語文学を専攻し、1982年から4年間、中国語を学びました。ある日、友人が「中国語検定に合格したで」と嬉しそうに話していたことを今も覚えています。けれども当時、周囲で中検を受ける仲間はほとんどおらず、「それ何?」という反応も珍しくありませんでした。中検の社会的な認知度はまだ低く、語学力の証明として活用される機会も多くはなかったのです。

それから年月が流れ、私は1991年から32年間、福井県立足羽高等学校で国語と中国語を教えてきました。中でも国際科中国語コースでは、中国語を毎日学び、「全員が中検に合格して卒業すること」を目標に掲げて指導してきました。私が担任や副担任を務めたクラスでは、全員がいずれかの級に合格して巣立っていました。

高校生たちが一歩ずつ級を上げていく姿は、まさに「語学の階段を登る」ようです。高校1年で準4級、次に4級、そして3級へ。中でも4級と3級には高い壁があり、何度も挑戦してやっと合格するという状況でした。ある年、最後の一人が合格した時、クラス中が拍手で祝福し、その生徒は自信を取り戻して次のステージへと大きく羽ばたいていきました。

現在、私はオンラインで高校生に中国語を週2単位で教え、自宅では社会人にグループや個人レッスンを行っています。受講者の目的はさまざまです。仕事で中国語が必要な方もいれば、中国旅行を楽しみたい方、日常会話を学びたい方もいます。共通しているのは、「中検を学習の指針にしている」という点です。ゼロから始めた方でも、合格という成果が次の目標への原動力となり、「自分にもできた」という実感が自信につながっています。

中検には、学ぶ人にとって多くの利点があります。

- ① 日本人学習者向けに設計されており、翻訳や通訳を通して理解が深まる
- ② 筆記とリスニングの両方に基準があるため、弱点を把握して克服できる
- ③ 「読む・聞く・話す・書く・訳す」の5技能をバランスよく養える
- ④ 高校生にとっては推薦入試などで評価される
- ⑤ 大学生や社会人にとっては、中国語人材としての証明となる

外国語を学ぶには、コツコツとした積み重ねが欠かせません。ときには行き詰まり、あきらめそうになることもあるでしょう。そんな時こそ、中検を「スマールステップ」として活用してみてください。小さな達成を重ねていってことで、やがて大きな自信となって返ってきます。

あなたの中国語学習の旅に、中検という道しるべが力強い味方となってくれるはずです。まずは一歩、踏み出してみませんか?



“不經常”と“經常不”

魯 晓琨（文京学院大学）

過去二回は否定形“不”と“没”が動詞、形容詞述語を否定するとき、助動詞を否定するときの使い方について考察しました。今回は“不”と“没”が状況語を否定するときの使い方を説明します。

“不”と“没”は通常の場合、否定する文成分の前に置かれるので、状況語+述語部分を否定するときには状況語の前に置かれます。例えば、

- (1) 他没把工作做好。(彼は仕事をうまくやっていません。)
- (2) 他没被老师表扬。(彼は先生に褒められていません。)
- (3) 他没在看电视。(彼はテレビを見ていません。)
- (4) 不马上出发，就来不及了。(早く出発しないと、もう間に合いません。)
- (5) 他不认真学习。(彼はまじめに勉強しません。)

上記の構文では“不”と“没”は状況語の前にしか置くことができません。つまり、この場合“不”と“没”は直接動詞述語の前に置いてはいけません。したがって、次の言い方は成立しません。

- (1)'* 他把工作没做好。
- (2)'* 他被老师没表扬。
- (3)'* 他在没看电视。
- (4)'* 马上不出发，就来不及了。
- (5)'* 他认真不学习。

(1)(2)と同じ使い方の前置詞には“比”“给”“替”“从”“朝”“向”“往”“按”“按照”“根据”などもあり、(3)(4)と同じ使い方の副詞には“立刻”“立即”“赶紧”“一起”“一齐”“一同”“只”“单独”などもあります。

以上と異なり、“不”と“没”は状況語の前に置いても述語の前に置いてもよい場合がいくつかあります。まず前置詞フレーズによる状況語を見てみましょう。

- (6)a 他不在教室学习。
(彼は教室で勉強しません。)
- b 他在教室不学习，光捣乱。
(彼は教室で勉強せず、騒いでばかりいます。)
- (7)a 他不用筷子吃饭。
(彼はお箸でご飯を食べません。)
- b 他用筷子不吃饭，光夹菜。
(彼はお箸でご飯を食べず、おかずを取るだけです。)
- (8)a 妈妈没跟我说弟弟的事。
(お母さんはわたしには弟のことを話しませんでした。)

b 妈妈跟我没说弟弟的事。

(お母さんはわたしに弟のことは話しませんでした。)

(9)a 他不对病人说话。(彼は病人には話しません。)

b 他对病人不说话。(彼は病人に話はしません。)

“不”と“没”的位置によって意味も違います。状況語である前置詞フレーズの前に置くと、前置詞フレーズを否定しますが、述語の前に置くと動詞を否定します。つまり(6)aでは、勉強はしますが、ただ場所は教室ではありません。反対に(6)bでは、教室にいますが、勉強せず、他のことをします。他也同様に説明できます。

前置詞フレーズ状況語のみならず、副詞状況語も同様な構造があります。程度副詞から見てみましょう。

不很礼貌。(あまり礼儀正しくない。)

很不礼貌。(無礼だ)

不特别好。(特別よいのではない。)

特别不好。(特別に悪い)

不太好吃。(あまり美味しいしない。)

太不好吃。(すごくまずい)

不十分公平。(十分に公平ではない。)

十分不公平。(全然公平ではない。)

“不”を程度副詞の前に置くと、その程度を否定し、その程度以下であることを示しますが、述語の前に置くと、述語を否定し、程度副詞は否定形の程度を表します。“不很礼貌”は“不礼貌”ではなく、“礼貌”的度は“很”まで達していません。反対に“很不礼貌”は“不礼貌”的度は“很”まで達しています。他也同様に解釈できます。程度副詞は数十個ありますが、“不”的否定を受けられるものはここで挙げられたものだけです。

同じことは範囲副詞の“全”“都”“全都”にも表れています。

(10)a 我们不都是日本人。(私たちは全員が日本人であるわけではありません。)

b 我们都不是日本人。(私たちはみんな日本人ではありません。)

(11)a 这件事的内幕我不全知道。

(このことの内幕をわたしは全部知っているわけではありません。)

b 这件事的内幕我全不知道。(このことの内幕を私は全く知りません。)

同じことは時間副詞“一直”“永远”にも、頻度副詞“经常”“常”“常常”“总”“总是”にも、語気副詞“一定”にも表れています。例えば、

(12)a 公司的工作忙，他不经常来上课。

(会社の仕事が忙しくて、彼はあまり授業に出ません。)

b 他经常不来上课，怎么能学好?

(彼はよく授業を休んでいるのに、どうしてマスターできますか。)

例(12)aでは“来上课”的頻度は“经常”まで達していないと言っていますが、一方(12)bでは“不来上课”的頻度は“经常”だと言っています。

また“不经常X”は、事実を言っているだけですが、“经常不X”は事実を言う同時に、よく行なっていないことに対してそうすべきではないという話し手の評価も含まれています。

中国語の“想”“愿意”“要”について（2）

王 志英（沖縄大学）

“愿意”は動詞と能願動詞として使われる。“愿意”はある前提に対し、主体がそれを望んでいるかどうかという意志表明を表す。“愿意”的基本義は主体がある選択に迫られている時、或いは幾つかの可能性に直面する時、その中の一つに賛同するかいなか、その可能性に対する意志表明を表す。

- (1) 我愿意安静一点儿。(私は静かなほうがよい。)
- (2) 如果愿意改过，我就宽恕你。(もしやり直す気があれば、許してあげる。)

動詞としての“愿意”は、主体が幾つかの選択事項や可能性のある事柄に対し、自分の意志表明を表すと同時に、その事柄に対する主体の願望や願いを表すものもある。

- (3) 大家愿意考试题容易些。(皆は試験問題がやさしいほうがいいと考えている。)
 - (4) 不愿意，就挂耷脸子。(気に入らないとすぐむっとした顔になる。)
- 動詞としての“愿意”は“想”に置き換えることができない。
- (3)' *大家想考试题容易些。
 - (4)' *不想，就挂耷脸子。

“愿意”は能願動詞である場合，“愿意”の後に動詞が続き、主体がyes/noなどいくつかの選択事項や可能性のある事柄に対し、そうしたいあるいはそうしたくなかったという意志表明を表す。

- (5) 我听你们的话，我愿意去日本留学。(私は言うことを聞く。日本への留学に同意する。)
- (6) 我想去日本留学。(私は日本へ留学に行きたい。)

この“愿意”は(6)のように“想”に置き換えることができるが、(5)は主体がある前提のもとでの決断を表すのに対し、(6)の“想”は主体の願望や思考活動を表す。主体の願望を表す場合、“想”と“愿意”は両方使える。

- (7) a 我想为这次活动捐钱。(今回のイベントのために寄付をしたい。)
- b 我愿意为这次活动捐钱。(今回のイベントのために寄付をしたい。)
- (7) a の“想”は主体の思考活動を表し、“捐钱”ということを考えているという意味を表し、“捐钱”は本人自らの願望であることを表すのに対し、“愿意”はある呼びかけに対し、主体が判断し、“捐钱”ということに賛同し、主体の意志表明を表す。日本語に訳せば、同じ「…したい」という意味になるが、中国語ではaのように主体自らの願望なのか、bのようにある呼びかけに対する意志表明なのか、ニュアンス的な違いが見られる。次の例も同じである。

- (8) a 我想为祖国献出一切。(すべてを祖国に捧げたい。)
- b 我愿意为祖国献出一切。(すべてを祖国に捧げたい。)